

すくすく たけのこ



“心をつなぐ”ふれあいを！

青い空と真っ白な入道雲、木間に響く蝉の音が本格的な夏の到来を告げています。

夏はやっぱり子どもたちの季節ですね。



【しつけとは？】

さて、親御さんとの懇談の中で、よく質問されるのが、子どもの「しつけ」です。「しつけって必要ですか？」「古くありませんか？」「どうやってしつけをしていけばいいですか？」など、内容はさまざまです。

そこで、今回は「しつけ」について考えてみたいと思います。

昔から日本で「しつけ」は「躰」と書いてきました。日本人が作った「和字」です。文字通り「美しい身」。つまり「美しい言動(ふるまい)」がしつけの本来の意味です。



【しつけの2つの柱とは？】

しつけで私が心に残っているのは、兵庫教育大学の学長・名誉教授であった上寺久雄氏のしつけの「2つの柱」の話です。

上寺氏の話をもとに、考えていきましょう。

柱のひとつは「行動秩序の基本」です。分かりやすく言えば**エチケット**です。「履物はこうそろえるんだよ」「返事はハイとしようね」「朝のあいさつは元気に……」など、人間として生きる基本の行動を教えていきます。狭い意味で、これをしつけと呼んでいます。**礼儀作法**といってもよいでしょう。



もうひとつの柱は、「人間として生きる姿勢」としての**モラル**です。人とどのように接するか、お互いが快く生きるためにはどうあるべきか、人の心を傷つけないようにするには、どうしたらよいか……。こうしたしつけは、前者のしつけより、もっと幅広い、底の深い、言うなれば「人間としての姿勢・在り方」です。人間だけがもつ大切な心構え、行動の在り方でもあります。

【しつけは必要？】

「今の時代に“躰”なんて古くさい」と反発する人もいるかも知れませんが、**人間社会で生きていく上で、エチケットやモラルはとても大切な要素**です。

さらに、角度を変えて言えば、1つ目の柱が「人間としての知識」の問題だとすれば、2つ目の柱は「人間としての知恵」の問題だと言えます。**幸せな人生とは、知識と知恵を生かしながら生きることではないでしょうか。**



【親としての取り組み】

ではしつけを、子どもにどのようなかかわりで身につかせ、心にしみこませていけばよいか考えていきたいと思えます。



1つ目の柱であるしつけ(エチケット)は、日常生活の中で、親のすることを「こうするのよ」とまねさせることから始め、その都度よくできたらほめてあげることで身につけていきます。**日頃の親の接し方、声のかけ方、振る舞い方が大事**です。

2つ目の柱であるしつけは、**モラル**ですから、直接、人と接した後で、「**あのようなきときは、こうするとみんな気持ちよく感じられると思うけど、あなたはどう思う？**」と、**ともに考え、教えていくことが大切**です。そして、小さいときからとるべき行動を話してあげることです。

例えば、寝物語をするときに、また絵本を読んだり、話をしたりするときに、**子どもの心に触れるように話してあげればよい**のです。教訓的に押し付けるのではなく、楽しい話や悲しい話を数多く話してあげながら、子どもの「人間としての心」を育むのです。

【池田先生のしつけに対するお考え】

しつけについて、創立者池田先生は、関西校の第1回入学式で次のようにスピーチされました。

「生活が**円滑に、円滑に、楽しく回転するためには、そこに一定のリズムがあります。このリズムを体得することを躰と申し上げたい**のであります。(中略) **躰は理屈で理解させてのみこませるのではなく、まず、行動を実行することから自然に慣れて、頭ではなく、体全体で体得していく教育法**の一種とも申せましょう」

このようにしつけは、子どもがよりよい生活を送るための**リズムを体得させる大切な役割を担っている**とも言えます。

【注意したいこと】

最後にしつけで、気をつけたいことを記しておきましょう。



〈 順序が大切 〉

1点目は「**順序**」ということです。**教育は、愛情期・しつけ期・自立期の3期に分かれる**と言われています。

明確な境界線があるわけではありませんが、ここで、押さえておきたいのが、**愛情 ⇨ しつけ**という順番です。愛情に包まれた「**信頼の世界**」があつてこそ、**はじめてしつけが入る**のです。最初からしつけに入ろうとすると安定しません。**愛情という土台の上に、しっかりとしつけをのせていくという感覚**です。子どもが「自分は100%愛されている」という安心感を大切にしたいと思えます。

〈 やさしく・ゆるやかに・根気よく 〉

2点目は、しつけは、「**やさしく・ゆるやかに・根気よく**」ということです。

「しつけ」という言葉は、もともと和裁の言葉です。美しく縫い上げるための予備工作として、重ねた布が動かないように、あらかじめ、仮に弱い糸(しつけ糸)で縫うことから由来します。



いい子にしようと思うあまり、強い糸で子どもの個性を強く縫いつける必要はありません。しつけ糸のように「やさしく、ゆるやかに、根気よく」をイメージして行っていきましょう。

〈 しつけスタイルは共有型で 〉

3点目は、「**しつけスタイルは共有型で**」ということです。お茶の水女子大学名誉教授・IPU 環太平洋大学教授の内田伸子氏は、「**強制型しつけ**」(大人の方で子どもをコントロールした方がよいとするしつけ方)よりも、「**共有型しつけ**」(親子の触れ合いを大切に、子どもと楽しい経験を共有するしつけ)の大切さを主張されています。



一方的な押し付けにならないよう、子どもとのコミュニケーションを楽しみながら行っていくことが大事なのです。

暑い夏、親子で“**心をつなぐ”ふれあい**を大切にしながら、思い出いっぱいの夏休みにしていきましょう。(晃)

